

高等小學  
男子用  
習字本

埼玉私立教育會編纂

卷  
菱澤揮毫

日用書類三ノ下

K120  
32  
3.2

K120.71

32.3

3.2

埼玉私立教育會編纂

卷 菱澤揮毫

第三年後期

高等小學 男子用 習字本

日用書類

埼玉私立教育會藏版

告兄こい今いま教しよ首しよ尾び

能よ為よ中ちゆう學がく校がうへ

清きよ入い學がく家が々々々々由よし

賀が々々々々々々々々

中台迄此之善く  
此とも是より一層  
清勉勵之程希  
望之至之度也。

小生此度入校滴  
之事古少之達し  
懇切なる古書面下  
され深謝存りし

牽志難相叶以

後之付身物來充分

勉強仕事志覺悟

小之五里作。

過日注文いたし

置山小學物理書

今以て到る為致す

甚差支山

右ハ已ニ出テ出ル  
右家臣哉又品切  
等小之阿里也  
返事承度下。

先年植付置下自  
園之茶本年より  
摘取積ニ付製茶  
師走人産入度存下

因て古地方にて需  
三應一の者此度  
の豫て清に教み置  
以下度作。

仰越され此製茶師  
之儀幸懇意之  
者にお供仕度承  
諾被一吳度間

古摘取の頃迄一報  
下されぬ旨の直ふ本  
人形出の様お計ひ  
中づく作。

昨夜いふ急患の失火  
そ終に此類焼く由  
驚入る旨皆の様は  
怪我もなく

高橋 晋 字 棟  
市立近所をされぬ也  
法品市人舞ごして  
美乃山官清に納め下  
され度ぬ。

在京に友人あり石  
版摺に教ぬ訓書  
数葉送るに越中  
是は新版のぞりて



未<sub>レ</sub>有觸水さるも如  
に之有リ且出來<sub>レ</sub>也  
よ後<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>山<sub>レ</sub>石<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>中  
三枚進上<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>也。  
昨<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>抄<sub>レ</sub>角<sub>レ</sub>清<sub>レ</sub>來  
荷<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>山<sub>レ</sub>石<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>風  
情もこれなく<sub>レ</sub>恥<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>也  
清<sub>レ</sub>陶<sub>レ</sub>里<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>後

風呂敷敷色之何れ  
多分法所ある事と  
存心習持之世多上  
作直更元下され度也。

今般教道学校に於て教  
育幻燈會之何り且  
幸ふ某先生を  
當地方漫遊之序

一場の演説致され  
 其の言葉會如何  
 ふん哉思るより清  
 透ひやかしくふ。

承水の流文上様は  
 痛氣のより清空  
 体如何は座も也時  
 作も兎角不順の心

高寺書字本  
 三ノ下  
 十

古保獲者一之好  
 水及法水館生少  
 有ら病入横河  
 上げ下され度小

明治二十六年四月十四日印刷  
 同 年四月十五日出版

正價金五錢



著者兼  
 版權所有者

埼玉私立教育會

埼玉出版組合代表者

埼玉縣北足立郡浦和町百字番地

1207

發行兼  
 印刷者

同

長嶋為一郎  
埼玉縣北足立郡鴻巣町草四番地



高野幸吉  
埼玉縣北足立郡浦和町三丁目番地



特別賣所  
 岩槻 栗橋 加須 本庄 小栗野  
 水野武平 塚本元次郎 櫻井為之助 諸井巴 柴崎久四郎

特別賣所  
 飯能 小川 東京 同 同  
 金子彌吉 高荷剛太郎 小林喜若衛門 柳原友吉 長嶋恭三郎

